

## 関ハム2009

7月18、19日 関ハムが開催されました。  
J13ZAGも展示コーナーに出展し、今年の秋のSEANET2009、  
APDXC-2010、JAIG-2010の案内をしました。  
電波適正利用推進員協議会の特別局“8N3DNP”の運用と  
QSLカードの即時発行に協力しました。

# 関西ハムの祭典



# ペルー旅行記

JA3IVU 北井 十生  
JS3FYW 北井 英子

2009年4月24日から5月4日まで南米ペルーへ親娘3人で出かけてきました。13人のツアーでも添乗員が付いています。4月24日 関空発 BR167で16時30分に出発し、機内はガラガラ 3人分を一人占め、ゆっくり横になって寝た。ロスに10時10分に到着した。

アメリカの入国審査、出国も持ち物検査にまた時間がかかる。

今年はまだ、ESTAという事前の届けも必要となった。というわずらわしい審査も何とか早めに済ませ空港内でお寿司を食べていざペルーへ。ロス発 LA 601で13時20分に出発し、リマに23時55分に到着した。

計約20時間あまり飛行機を乗り継ぎペルーの首都リマに到着したのは同日の深夜。それでも空港は人がたくさんいる。関空ならこんな時間には人などほとんどいない。バスに乗ってホテルに入って眠ったのは02時ころでした。地球の裏側はやはり遠かった。飛行機の中で映画を3本(おくりびと レッドクリフpart 1とpart 2)見てしまった。

4月25日はゆっくり目の9時45分発。リマ市内にはスペイン時代の建物が多く、旧市街の黄金博物館(インカ時代の遺跡からの発掘もの)やアルマス広場やカテドラル、政府、サンフランシスコ寺院(地下にある地下墓地のカタコンベ)、新市街のミフロレス地区などを観光し、夕方ホテルの近くスーパーマーケットに出かけお土産を購入した。

4月26日は朝6時にホテル出発、パンアメリカンハイウェイを南下し、ナスカまで450kmのバス移動。途中、パラカスでモータボートにバジェスタ島へ。この島には海鳥たちのフンが溜まってできる肥料とペンギン、アザラシの楽園です。もちろん上陸はできません。

夕方、世界遺産地上絵で有名なナスカ平原に到着。ここまで周りは砂漠ばかり、川のあるところのみ緑があり、ぶどう、とうもろこし、じゃがいもなどを生産している。地上絵の保存に尽くした「マリアライ女史博物館」と高さ20mほどの展望台(10人ほど登れば揺れる。日本の安全基準でならばとてもおぼれない。)から見た地上絵はあまりにも大きく部分的にしかわからない。

今夜はナスカ泊まりだ。

夕食のあと町へ出かけてみた。小さな町なので何も買わずにすぐに帰ってきた。CNNテレビを見るとメキシコでの新型インフルエンザの放送をしている。

4月27日、7時にナスカ空港へ。小さな航空会社7-8社ある。しばらく待っていると搭乗する順番がきた。セスナ172型4人乗りと12人乗りのセスナ206型だ。4人乗り私の家族3人乗るように言われたが1人他の人と入れ替えて家族全員死亡というのを避けた。私は娘と他の人と3人で4人乗りのセスナに、セスナは八尾空港で10年ほど前に乗って以来久しぶりだ。

ヘッドホンをあて、いよいよ離陸。空港から5分ほどで地上絵のある平原に到着する。高度約1200フィートでパイロットが片言の日本語で「右ハチドリ 左コンドル」というように説明してくれる。右側と左側とお客さまのために同じ地上絵の上を右旋回、左旋回とする。これで酔う人がいるとこと。セスナから見るとあの大きな地上絵が小さく見え、またいろいろな線があるのでわかりづらい。しかしパイロットは懸命に「あそこだあそこだ」と教えてくれる。目で見ることで写真を写すことで頭がいっぱいだ。30分ほどのフライトで無事空港に到着した。

その後、ひたすらリマめざしパンアメリカンハイウェイを北上し、夕方リマに到着。また、ホテル近くのお店に出かける。

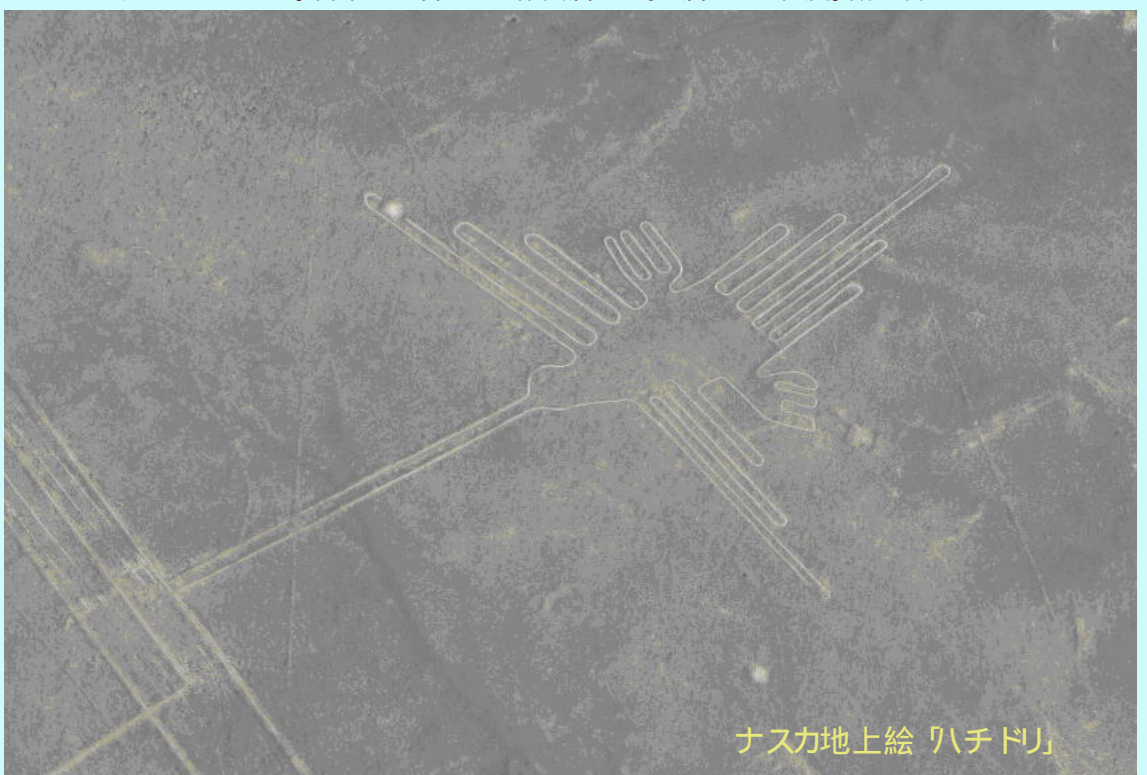
翌朝が早いのですぐに就寝。

4月28日、朝2時30分に起こされ、リマ5時55分発の便でクスコに07時に到着。3400m高山病に気をつけながらゆっくり歩く。それにしても太陽に近いせいか暑い。インカ帝国の首都の観光太陽の神殿やアルマス広場、カテドラル、十二角の石、クスコ郊外の遺跡サクサワイマン、タンボマチャイ(海拔3765m)などを見てその後、「インカの聖なる谷(ウルバンバ溪谷)」観光ヘピサクのマーケットやカルカ、ユカイ、を経て今日の宿泊地ウルバンバへここは海拔2800mそれでも少し頭痛がする。

この町はほんとうの田舎町でホテルの近くにはなにもない。日本の田舎にある雑貨店のような店がある程度。陽が暮れるとあたりはほん

と真っ暗 おかげで星がとてもきれいだ。南十字星も見えた。やはり南半球なのだ。しかしテレビでNHKの海外放送が映る。ここでもメキシコでの新型インフルエンザの放送をしている。久しぶりに日本のニュースも流れた。

4月29日、いよいよマチュピチュへ行く日だ。途中インカ時代の遺跡のオリヤンタイタンボ遺跡へ。オリヤンタイタンボ駅より高原列車(ピストーム)(経営はペルー国鉄からオリエント急行を走らせているオリエントエクスプレスへ)乗り約1時間20分でマチュピチュ村へ。乗合バスに乗り換え約25分九十九折りの道を上がり世界遺産マチュピチュ遺跡観光へ。バスを降りると国際色豊かな欧米人、日本人などたくさんやはり世界的観光地なのだ。それにマチュピチュ遺跡の入



ナスカ地上絵「ハチドリ」

場料は約5000円と結構高い。入り口から歩くこと約10分少し高台にでると写真で見たあの景色が目前に現れ、晴れており一瞬、全員景色に見とれる。しばらくしてみんな写真をと始める何枚撮ったか。今はデジカメなのでフィルムなど気にせず撮れる便利だ。午後半日かけて遺跡内を見学したがこのような場所によく作ったものだと感じる。今日はこの麓での宿泊なので終バスまでゆっくり見学する。

帰りのバス停にアンテナを発見。無線機をみるとCOM製だ。周波数は150MH帯のようだ。

何年か前までは九十九折りの道をまっすぐかけ下りカーブごとに「グッバイ」を言う「グッバイボーイ」はもういなかった。

麓は「アグアスカリエンテス」という町であるが訳すると「暖かめの水」つまり「温泉」という意味なので温泉に行ったがみんなが水着で入るぬるめの温水プールのようなものであったが湯上がりは日本の温泉のようにほかほかしてきた。

ここのホテルにはテレビがなかったので持っていった小さなモニターでビデオを見てるといきなり停電し真っ暗に非常灯のみ点灯。

30分ほどすると復帰したがホテルからなんの情報もなし。やはり日本とはちがう付近一帯が停電したらしい。

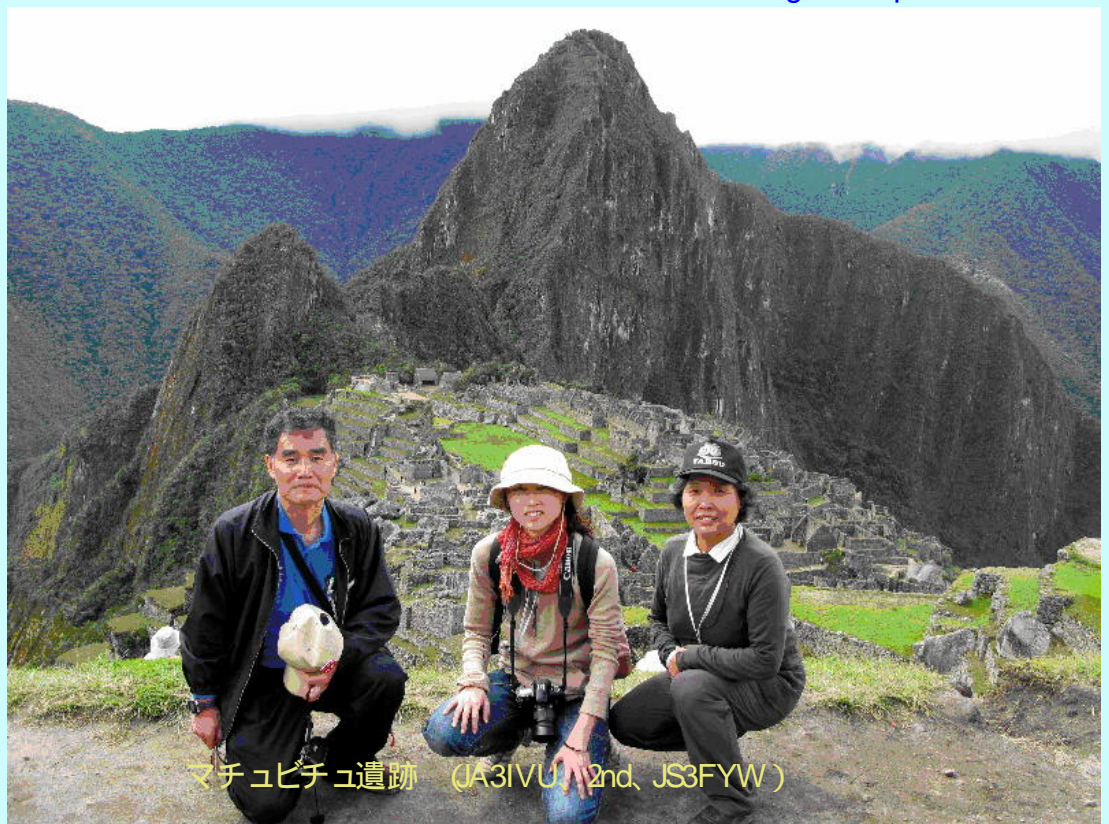
4月30日 朝から妻が「しんどい」と言い出す。高山病か。07時に出発 もう一度マチュピチュ遺跡へ 夜に雨が降ったのでガスが出ている。雲の間から見るのも幻想的でもいいかと思いつつバスに乗る。上に行ってもやはりガスの中で定番のビューポイントに行ってもいつものワイナピチュが見えない。遺跡がガスの流れによって見え隠れする。妻はここ

から行かず遺跡内で私たちの帰りを待つことにした。インカ道をたどって「インティプルク」へ。天気がよければきれいなマチュピチュ遺跡が下の方に見えるのだがこの日はガスがかかり見えない。1時間ほど晴れ間を待つが時間切れで下山することになった。途中からガスが切れ始め遺跡が見えだした。再びマチュピチュ駅より高原列車(ピスタドーム)に乗りオリアンタイタン駅へ 車中で乗務員がモデルに早変わりしてアルパカ製のセーターなど着て「ファッションショー」を行い、その後、車内販売うま考えたものです。また、バスに乗リクスコへ。ホテルに着くとやはり妻の高山病は直らず「医師」の診断を受ける。健康保険は使えない。診察料60\$、薬代20\$を支払う。夕食は食べず薬を飲む。ペルーの民族音楽「フォルクレーショ」を見ながらの夕食だったのに残念。

5月1日 チチカカ湖のある「プーノ」までバス移動 海拔4335mの「ラ・ラヤ峠」を超えて行く。遠くの山には白く氷河が光っている。オロペサのパンの試食やチコ・プカラ博物館、高原列車のラヤ駅舎、ラクチ遺跡、シルスタニ遺跡を観光する。昼食はホットするおにぎり弁当と高山病対策のコカ茶を飲む。

プーノまであと1時間くらいというリアカ郊外で道路工事をあり迂回路に入ったとたんバウンドしてバスのエンジンがストップ。何度、セルを回してもかからない。燃料不足のようで運転手が軽油を買いに近くガソリンスタンドまで走って行った。どうやらバウンドしたときにエンジン内にエアが入ったらしくエアを抜こうとするがうまくいかない。ベンツのバスなのに。しかたなく代わり100のバスをプーノから呼び寄せ人と荷物を入れ替えてプーノ向け出発。ホテルに着いたときは真っ暗になっていた。

バスの修理屋はクスコから来るので5~6時間かかるらしい。運転手2人を現場に残した。いつの間にか妻は元気になっていた。



マチュピチュ遺跡 (JA3IVU, 2nd, JS3FYW)



マチュピチュ遺跡と麓を運行する乗合バスのバス停に設置されているCOM製無線機

5月2日 チチカカ湖 (海拔 3800m、大きさは琵琶湖の12倍) 遊覧へ 葦で作った「島」へ。インディオの人たちがこの浮島に住んでいる。家も食料も燃料もこの「葦」。小学校もあった。島の家には「ソーラパネルとバッテリーとインバータ」があり、これで照明に使用している。テレビはなかった。

フリアカ空港からリマ空港へ。夕食のために日本食レストラン「富士」へ 松花弁当が出た。久しぶりの日本食だった。

5月3日 01時05分発のLA600でロスへ 眠っていたので離陸したのもわからなかった。07時40分着 また、長い入国審査を経て 今度はうどんを食べた。

ロス発 12時10分のBR167で関空へ 帰りは満席だった。新型インフルエンザ騒ぎで関空ではどのような扱いになるか心配した5月4日 16時30分到着するなり足止め。完全防衛をした検疫官が乗り込んで来た。一人一人に質問と体温を測ったため全員終わるのに1時間ほどかかった。検疫の様子の写真を撮ってはいけないと機内放送があるにもかかわらず撮っている人がいる。この便は台北までいくので撮っているのは台湾の人たち困ったものだ。全員の検疫が終わったりとドアが開き、関空内へ入り口でマスクを渡された。NHKが取材にきている。あとでニュースをみたら同行の人たちが写っていた。

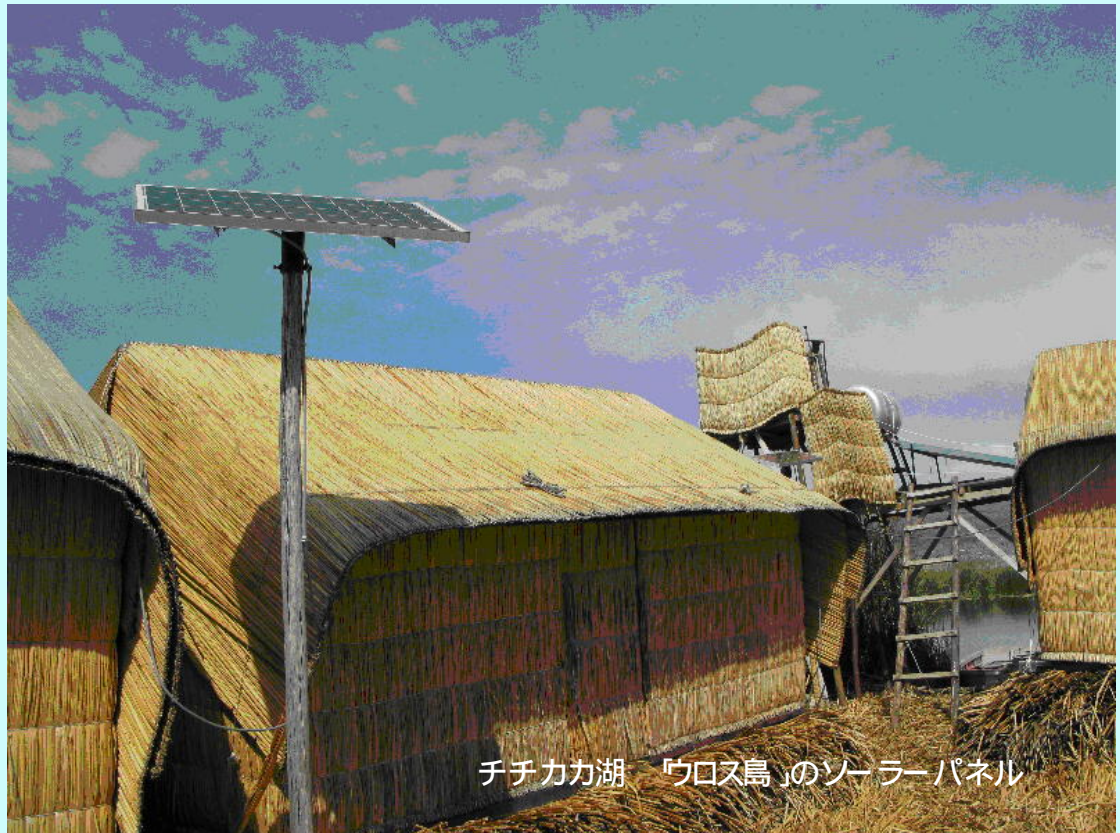
#### ペルー国内の無線関係のお話

携帯電話用のアンテナは多数あり 幹線道路沿線では通話可能 (GSM方式)。

アマチュア用のアンテナは見かけなかった。

業務用のアンテナ鉄塔は日本のアマチュア用の鉄塔より細く、高く、台風がきたらすぐ倒れそう

公共用の建物と思われるところには T2FD型のアンテナ (長さ15mくらい) が逆V型に上がっていた。おそらくHF帯と思われるが周波数は不明。



チチカカ湖 「ウロス島」のソーラーパネル



道路料金所にあった「T2FD型」のアンテナ

(白い建物の左側に鉄塔が建っている)

JJ3ZAG

大阪国際交流センター・ラジオクラブ

JP1TRJ JA3AA JA3IG JA3AER JA3AOP JA3DAU JA3FGN JA3HRV JA3IVU JA3NHL JA3PYC JA3QUU  
JA3TXZ JA3TYF JA3USA JA3VWT JH3AEF JH3EDG JH3GAH JH3VEY JR3IXB JR3LOO JR3MVF  
JE3BEQ JE3XSE JK3IYB JO3BAV JO3LZG JP3AZA JP3ILG JQ3EEL BV7FA